

## 従業員用の駐車場を アスファルト舗装した場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**新人さん：**事務所の裏の土地を舗装して従業員用の駐車場にするらしいですね。

**先輩：**マイカーで通勤する人が増えてきたからね。

**新人さん：**はい。感染症対策で公共交通機関の利用を避けたい人もいますものね。

**先輩：**ただ、マイカー通勤は便利だけど、事故のリスクもあるから、これまではあまり推奨はしてこなかったけれどね。

**新人さん：**ところで、遊休地をアスファルト舗装する工事代の処理は、その分だけ「土地」の簿価を高くすればよいのですか？

### ○解説

「構築物」とは、事業用に所有・使用している土地の上に定着した建物以外の建造物や工作物を処理する勘定

科目です。具体的には、塀、橋、鉄塔、庭園、緑化施設、看板、煙突、トンネル、舗装道路、井戸、ゴルフコース、下水道などが含まれます。

「土地」は非減価償却資産ですので、土地に定着する舗装道路などの「構築物」と「土地」そのものを区別することが重要となります。

「構築物」の減価償却においては、税法上、用途と構造を基本として「構築物」を区分し、それぞれに耐用年数を定めています（別表第1「機械及び装置以外の有形減価償却資産の耐用年数表」を参照）。

たとえば、舗装道路の用途で、アスファルトの構造であれば、耐用年数は10年となります。

なお、構築物の完成前に一部代金を支払った場合は「建設仮勘定」として処理し、引渡しを受けた時点で「構築物」に計上します。

### ケース1 構築物を設置する場合

事務所裏の遊休地を従業員用の駐車場にするためにアスファルト舗装にした。その代金300万円（税別）を翌月末に業者に支払うことになった。

<b>【借方】</b>	構築物	3,000,000	／	<b>【貸方】</b>	未払金	3,300,000
	仮払消費税等	300,000				

### ケース2 構築物を減価償却した場合

決算にあたり上記の構築物300万円について減価償却を実施した。なお、当期の減価償却費は30万円であった。

<b>【借方】</b>	減価償却費	300,000	／	<b>【貸方】</b>	減価償却累計額	300,000
-------------	-------	---------	---	-------------	---------	---------

### ケース3 構築物を売却した場合

構築物である広告用看板100万円（簿価5万円）を除却処分し、取り壊し費用1万円（税別）を現金で支払った。

<b>【借方】</b>	減価償却累計額	950,000	／	<b>【貸方】</b>	構築物	1,000,000
	固定資産除却損	60,000			現金	11,000
	仮払消費税等	1,000				